

要 旨

本研究は、外国語活動において、積極的にコミュニケーションを図る力を育てるために、外国語を通じたコミュニケーション活動における教師の働き掛けの在り方を探ったものである。相手の反応を受けて、言いたいことを確認したり、補足したりする働き掛けを相互に行っていくことで、相手と分かり合うようになる。導入において、教師と児童が相互作用する活動の中で伝えるための工夫に気付かせることで、終末に児童同士で行うコミュニケーション活動において積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童が育ってきた。

〈キーワード〉 ①相互作用 ②働き掛け ③伝えるための工夫

1 研究の目標

積極的にコミュニケーションを図る力を育てるために、外国語活動において、外国語を通じたコミュニケーション活動における教師の働き掛けの在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

平成23年度から小学校に外国語活動が導入され、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標として、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する取組が行われてきた。現在、次期学習指導要領の改訂に向けて、外国語活動における思考力・判断力・表現力等についての審議が行われているところである。

平成26年度小学校外国語活動実施状況調査によると、「英語を使ってしてみたいことは何か」という問いに対し、小学5、6年生の77.1%が「外国の人と友達になること」、75.5%が「外国の人と話すこと」と回答している。この結果から、児童は外国語を通じて、他者と交流したいと考えていることがうかがえる。所属校5年生の児童の実態を調査したところ、84.3%の児童が「外国語活動は楽しい」と答えている。しかし、その理由を見ると、児童が感じている楽しさは、ゲームの楽しさであり、外国語を通じた他者との関わりによる楽しさではなかった。また、外国語の音声や基本的な表現へ慣れ親しむ活動の目的が外国語を覚えることであると偏って認識しているのではないかと考えられる記述も見られた。コミュニケーションを図ったら「相手の言いたいことが分かった」「自分の言いたいことを伝えられた」という伝え合うことの楽しさを感じて、積極的にコミュニケーションを図る児童の育成を目指したい。

外国語活動の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うこと」⁽¹⁾である。コミュニケーション能力の素地を養うという目標を達成するために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点を置く。直山木綿子は、外国語活動における思考力・判断力・表現力等を身に付けた具体の姿を「どうすれば相手に自分の思いがより伝わるか、相手の思いをより理解できるかを思考し、もっている知識や技能を、場面に合わせて活用している」姿⁽²⁾としている。これは、伝えるための工夫をしながら、自分が言いたいことを伝える姿であると考えられる。本研究では、積極的にコミュニケーションを図る児童の姿を、伝えるための工夫をしながら自分の言いたいことを伝える児童、相手の思いや考えを何とか理解しようとする児童と捉える。伝えるための工夫をするとき、相手の思いや考えを何とか理解しようとするときに思考力を働かせていると考える。相手の反応を見て、互いの言いたいことを確認したり、補足したりする働き掛けを相互に行っていくことで、少しずつ分かり合える。児童相互の積極的

なコミュニケーションを目指し、その前段階として、教師と児童が相互作用する活動を取り入れることで、自分の思いや考えを相手に伝えるための工夫について気付かせたい。そして、この活動で得た伝えるための工夫を活用しながら、児童相互のコミュニケーション活動に取り組み、「相手の言いたいことが分かった」「自分の思いや考えを受け止めてもらえた」という伝え合うことの楽しさを感じ、積極的にコミュニケーションを図る力を育てたい。

そこで、本研究では研究テーマ、研究課題を受け、単元の導入段階で教師と児童が相互作用する活動を取り入れることで、自分の思いや考えを伝えるための工夫について気付かせ、積極的にコミュニケーションを図る児童の育成を図りたいと考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

外国語活動において、単元の導入段階で教師と児童が相互作用する活動を行えば、自分の思いや考えを伝えるための工夫について気づき、積極的にコミュニケーションを図る児童が育つであろう。

4 研究方法

- (1) コミュニケーション活動についての先行研究や文献等を基にした理論研究
- (2) コミュニケーションに関する実態調査と児童の思考を促す教師の働き掛けの分類・整理
- (3) 検証授業を通じた、手立ての有効性の考察および仮説の検証

5 研究内容

- (1) 小学校学習指導要領解説外国語活動編や先行研究、その他の文献等を基に理論研究を行う。
- (2) 事前にアンケートを行い、その結果を分析し、場面設定や活動内容の工夫の基礎資料とする。
事後のアンケートと授業における児童の活動の様子を分析し、思考力の高まりを見る。
- (3) 所属校の5年生において、検証授業を行い、仮説を検証し、手立ての有効性を示す。

6 研究の実際1(実践化への手立て)

- (1) 文献等による理論研究

『小学校外国語活動 研修ガイドブック』によると、コミュニケーションとは、相互に影響を与え合う言語・非言語による活動であり、話し手も聞き手も相手の反応により話の内容や表現方法を変化させ継続していくということである。つまり、どちらも話し手、聞き手になるという「相互的な関係」と「変化」と「継続」が、コミュニケーションの特色であるとしている。

ヴィゴツキーは、発達の最近接領域を提唱し、社会的相互作用と学習における大人と子供との関係がもつ役割を重要視している。ヴィゴツキーは、発達の最近接領域の範囲内で、教師が媒介的な支援をする役割を果たすことによって、児童の理解や知識を拡大することができたときに学習が起こると考えている。よって、教師と児童との相互作用を通して、能力を引き出す工夫が重要であるとする。ヴィゴツキーの発達論では、社会的相互作用は認識形成の上で直接的な影響を与えるものと位置付けられている。本研究では、外国語活動における相互作用を「お互いに確認したり、質問したり、補足したりする等の働き掛けを行うことで、相手と分かり合おうとすること」と捉える。

どのような働き掛けが学習を起こすのかについては、ブルーナーの考え方を参考にする。ブルーナーは、発達の最近接領域における教師側の働き掛けを「足場づくり」として一般化し提案した。

「足場づくり」とは、子供が新しい理解・概念・能力を発達させようとするとき、教師が行う働き掛けと捉える。ブルーナーは「足場づくり」の機能として、「補強」「自由度の縮小」「指示の調整」「重要な特徴の記録」「フラストレーションの制御」「デモンストレーション」の6つを挙げ

ている。これらを参考に、本研究の手立てとなる教師の働き掛けを表1のようにまとめた。

本研究では、「伝えるための工夫をしながら、自分が言いたいことを伝える姿」が思考力を働かせながら積極的にコミュニケーションを図る児童の姿と考え、研究を進める。佐賀県教育センターは、外国語活動でのコミュニケーションの捉えについて、「英語でのやり取りだけを英語活動でのコミュニケーションととらえるのではなく、意味や感情のやり取り、受信と発信、言語・非言語メッセージの活用とコミュニケーションを広くとらえ、単なる英単語や英語表現の練習だけにとどまらない活動を創造することが重要になっていきます」⁽³⁾と述べている。本研究においても、この捉え方を基にして伝えるための工夫を、表2のように考えた。表2に示す伝えるための工夫を、教師の働き掛けによって、気付かせていく。

表1 「足場づくり」の機能を基にした教師の働き

「足場づくり」の機能	教師の働き掛け
補強	児童の興味関心を引き出す。
自由度の縮小	スモールステップで手順を示したり、質問したりする。
指示の調整	児童を目的へ導く指示や発問をする。
重要な特徴の記録	意味の交渉をする。
フラストレーションの制御	内容の難易度を調整したり、児童に自信や安心感をもたせたりする。
デモンストレーション	デモンストレーションやモデリングをする。

表2 伝えるための工夫

伝えるための工夫	
①	非言語方略(表情, ジェスチャー, 絵や写真等)
②	具体例を示す。
③	知っている言葉で言い換える。
④	知っている言葉を組み合わせる。
⑤	発想を変える。
⑥	繰り返す。
⑦	リキャストする。
⑧	ほめる, 励ます。

以上のことから、単元の導入で教師と児童が相互作用する活動を行えば、自分の思いや考えを伝えるための工夫について気づき、積極的にコミュニケーションを図る児童が育成できるのではないかと考える。

(2) 具体的な手立て

ア 教師と児童が相互作用する活動における教師の働き掛け

「相互的な関係」「変化」「継続」というコミュニケーションの特色から、教師と児童の相互作用モデルを図1のように考えた。まず、教師の発話があり、それに対して児童が何らかの反応を示す。次に、その反応を教師が解釈して、それに応じた働き掛けを伝えるための工夫をしながら行う。そして、教師の働き掛けを受けて、児童が何らかの反応を示す、という流れができる。児童の反応から教師の働き掛けまでの流れを何度か繰り返し、お互いに分かり合うことができる。

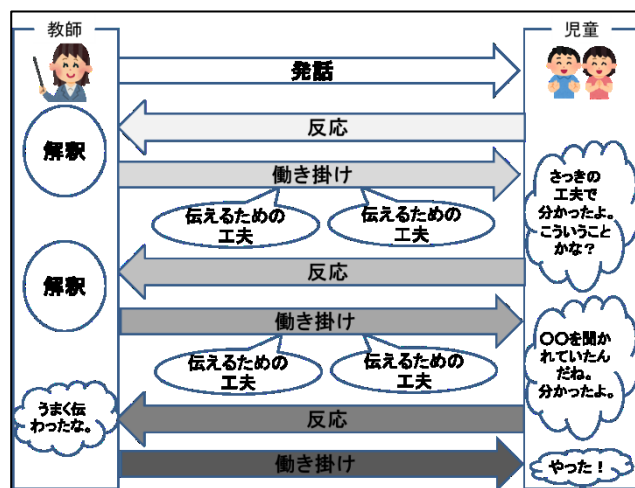


図1 相互作用モデル

この教師と児童が相互作用する活動において表1に示した教師の働き掛けを、表2に示す伝えるための工夫をしながら行っていく。

さらに、活動の中で教師が発話したことに対して、児童がどんな反応をするかを想定し、それに応じた働き掛けと伝えるための工夫について整理した（表3）。

表3 予想される児童の反応とそれに応じた教師の働き掛け

予想される児童の反応	児童の反応に対する教師の解釈	教師の働き掛け	伝えるための工夫
反応がない。	聞いていない。	・児童の興味関心を引き出す。	①非言語方略を使う。
	聞き取れていない。	・児童を目的へ導く指示や発問をする。	①非言語方略を使う。 ⑥繰り返す。
	意味が分かっていない。	・スモールステップで手順を示したり、質問したりする。	①非言語方略を使う。 ②具体例を示す。 ③知っている言葉で言い換える。 ⑥繰り返す。
的確に答えられない。	何を問われているか分かっていない。	・児童を目的へ導く指示や発問をする。 ・意味の交渉をする。	②具体例を示す。 ⑥繰り返す。
知っている英語で言い換える。 知っている英語を組み合わせる。	意味は通じているが、答える英語が分からない。英語が出てこない。	・スモールステップで手順を示したり、質問したりする。 ・児童を目的へ導く指示や発問をする。 ・デモンストレーションやモデリングをする。	②具体例を示す。 ③知っている言葉で言い換える。
日本語で答える。			④知っている言葉を組み合わせる。 ⑤発想を変える。
非言語のみで答える。			⑦リキャストイングする。
英語で正しく答えることができる。	意味が通じており、英語で表現できている。	・内容の難易度を調整したり、児童に自信や安心感をもたせたりする。	⑥繰り返す。 ⑧ほめる、励ます。

(3) 児童の思考力を高める外国語活動の学習過程

児童に自分の思いや考えを相手に伝えるための工夫に気付かせ、それを実践しながら、コミュニケーション活動を体験する学習過程を組み、児童の思考力を高めていきたい(図2)。そこで、まず、導入で教師と児童が相互作用する活動を行う。その活動の中で、教師が言語的・非言語的方略を使いながら、表3を基に児童の理解を助け、思考を促す働き掛けをすることで、児童に自分の思いや考えを相手に伝えるための工夫に気付かせる。次に、慣れ親しむ段階で英語表現を聞いたり、言ったりすることに慣れさせる。最後に、終末の活動で児童同士がコミュニケーションを図る活動を行う。そこでは、児童は教師の働き掛けによって気付いた伝えるための工夫をしながら、自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを何とか理解しようとしたりする。伝えるための工夫をするとき、相手の思いや考えを何とか理解しようとするときに思考力を働かせていると考える。

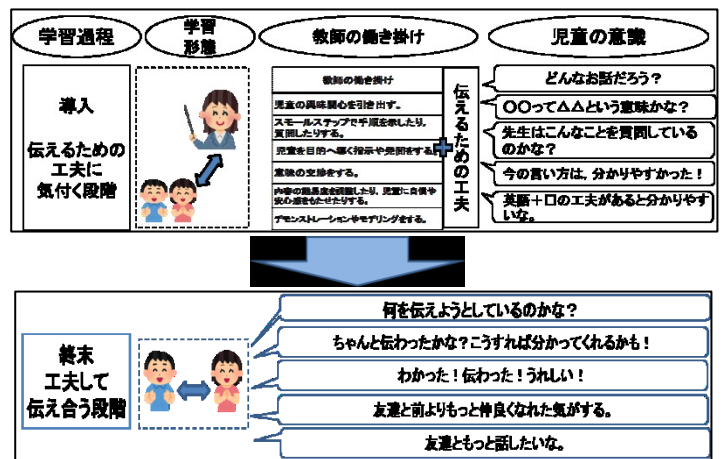


図2 伝えるための工夫に気づき、伝え合う学習過程

(4) 検証の視点

ア 教師と児童が相互作用する活動における教師の働き掛けによって、児童に伝えるための工夫に気付かせることができたか。【検証の視点I】

イ 児童同士のコミュニケーションにおいて、児童は伝えるための工夫をしながらコミュニケーションを図ることができたか。【検証の視点Ⅱ】

7 研究の実際2（授業実践を通しての結果）

(1) 授業の位置付け

「5の1をデザインしよう」という単元を設定し、第1時で検証授業を行った。児童に「英語+□の工夫をして伝え合おう」というめあてを提示し、導入で絵本を使って、教師と児童全体のコミュニケーションを中心とした活動をした。その活動の中で、教師は言語的・非言語的方略を使いながら、児童に自分の思いや考えを相手に伝えるための工夫に気付かせるような働き掛けを行った。学習の前半は、教師と児童間のコミュニケーションを中心に行い、終末にかけて児童同士のコミュニケーションへと発展させていき、積極的にコミュニケーションを図る児童の姿を目指した。



(2) 授業の実際

ア 単元名 「5の1をデザインしよう」

イ 本時の目標

色や形を表す英語や自分の思いや考えを伝えるための簡単な英語や言語的・非言語的方略を使いながら、教師や友達と進んで関わろうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

ウ 授業記録

過程	学習活動と児童の意識	教師の働き掛け
導入 (伝え合うための工夫に気付く段階)	<p>1 絵本“COLOR ZOO”の中に出てくる色や形の英語表現を聞いたり、言ったりする。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことをするのか？ ・先生は、こんなことを質問しているのかな？ ・今の言い方は分かりやすかったな。 ・先生が言ったことに反応できた。 ・先生の言っていることが、分かって嬉しい！ ・英語+□の工夫があると分かりやすいなあ。 </div>	<p>○絵本（視覚的資料）を使うことで、児童の興味・関心や意欲を喚起する。</p> <p>○目的意識をもって活動に取り組ませるため、ゴールの活動を知らせ、本時のめあてを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">英語+□の工夫をして、伝え合おう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">英語+□の工夫を見つけよう。</div> <p>○児童に自然に英語表現を聞いたり、口にしたりしながら、新しい英語表現（形）に出会わせるため、教師と児童全体という形態で、既習の色や数字の英語表現を交えたやり取りをする。</p> <p>○児童の反応に応じて、工夫をしながら教師が働き掛けを行うことによって、児童に伝えるための工夫に気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><評価>絵本を使ったやり取りの中で教師の問いかけに反応している。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】（発言・行動観察）</p> </div>
終末 (工夫して伝え合う段階)	<p>4 間違い探しゲームをする。 <ペア></p> <p>・お互いが持っている絵カードの違いを探す。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えようとしているのかな。 ・〇〇さんの言っていることが分かった。 ・ぼくが言ったことは〇〇さんに伝わったのかな？ ・こうすれば伝わるかもしれない。 ・やっぱり△△（伝えるための工夫）をすると分かりやすいみたいだな。 ・伝わったみたいだ。嬉しいな。 ・〇〇さんのことがよく分かった。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">工夫して伝え合おう。</div> <p>○児童が安心してゲームを楽しみ、目的を達成できるようにするため、ルールを説明する。</p> <p>○英語が上手に言えなくても、伝えるための工夫をして何とか伝えよう、何とか分かろうと働き掛けることが大切であることを理解させる。</p> <p>○活動の途中で工夫した伝え方をしているグループを取り上げ、全体に紹介する。</p> <p>○正しい英語で伝えていたことよりも、何とかして伝えよう、分かろうとしていた姿を称賛し、伝えるための工夫として価値付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><評価>間違い探しゲームの中で自分の思いや考えを伝えるための簡単な英語や非言語的方略を使いながら、友達と進んで関わろうとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】（発言・行動観察）</p> </div>



(3) 考察


授業記録動画と児童の振り返りカードから考察する。

ア 【検証の視点Ⅰ】「教師と児童が相互作用する活動における教師の働き掛けによって、児童に伝えるための工夫に気付かせることができたか」について

導入の気付く段階における教師と児童が相互作用する活動でのやりとりの一部を資料1に示す。

児童の活動と教師の働き掛け () は、働きかけの目的や動きの補足 [] は、伝えるための工夫

動物	<p>(児童の興味・関心を引き出すため、視覚的な資料として絵本を使う。)</p> <p>T:What animal is in this page? ①非言語方略(絵本)を使う。</p> <p>C:反応なし (聞き取れていないかもしれないので、キーワードをつかませるために)</p> <p>T:What animal? ⑥繰り返す。</p> <p>(「動物」について尋ねていることに気付かせるために、動物を表す英語表現例を出す。)</p> <p>T:Dog? ②具体例を示す。</p> <p>C:No. (他にも動物名を言うよう促すため)</p> <p>T:No? ⑥繰り返す。</p> <p>C:(小声で)Mouse. (発話したことを認め、安心させるため)</p> <p>T:Mouse. ⑥繰り返す。 OK. ⑧ほめる, 励ます。 Any other? 動物の絵</p>	
色	<p>T:This is a tiger. And tiger's face is circle. Tiger's ears are also circles.</p> <p>T:(トラの耳を指さして) What color is this? ①非言語方略(指さし)を使う。</p> <p>C: 反応なし (「色」について尋ねていることに気付かせるために、色を表す英語表現例をいくつか出す。)</p> <p>T:Blue? Yellow? ②具体例を示す。</p> <p>C:No. T:Pink? C:No. (「色」について尋ねていることに気付かせることができたので、改めて質問する。)</p> <p>T:What color? ⑥繰り返す。</p> <p>C:Green. (英語表現を確認するために)</p> <p>T:Green. ⑥繰り返す。 (児童に自信と安心感をもたせるために)</p> <p>That's right. ⑧ほめる, 励ます。 Green circles. ⑥繰り返す。 動物の絵</p>	
数	<p>T:How many circles are there in this page? (「数」を答えるということに気付かせるために、指を折って、数えるジェスチャーをし、キーワードを繰り返す。)</p> <p>How many? ①非言語方略(ジェスチャー)を使う。 ⑥繰り返す。 (児童をスモールステップで答えに近づけるために、指さしながら途中まで数える。)</p> <p>How many circles?(絵を指さしながら)One, ... ①非言語方略(指さし)を使う。</p> <p>C:Three. T:(指で表しながら) Three? ①非言語方略(ジェスチャー)を使う。 ⑥繰り返す。 (正しい答えに導くため、真偽を問い、もう一度考えさせる。) Really?</p> <p>C:Four. T:(児童の反応を受け止め、確認するため) Four? ⑥繰り返す。</p> <p>C:Five. T:(児童の反応を受け止め、確認するため) Five? ⑥繰り返す。 Really?</p>	

数	<p>(安心感をもって次に進むことができるようにするため、児童全員で答えを確認する。) OK. Let's count them together. (指さしながら) One ,two, … .Five circles. ①非言語方略 (指さし) を使う。</p>
動物	<p>T:What animal? C:さる。 C:Monkey. (英語で答えた児童と日本語で答えた児童の両方がいたので、確認するため) T:Oh, yes! Monkey. ⑦リキャストイングする。</p>  <p>さるの絵</p>
形	<p>(今までと質問の仕方が変わる。「形」を答えるということに気付かせるために、「shape」を強調する。) T:What shape is red? ①非言語方略 (声の調子) を使う。 (聞き取れなかった児童にもう一度聞かせるため、間をとって、ゆっくりと発話する。) What shape is red? ⑥繰り返す。 C:White. (形ではなく、色について答えている。) (児童がスモールステップで答えに近づくことができるようにするため、まず、赤い色はどれなのか気付かせる。) ⑤発想を変える。</p>
	<p>T: (形を1つずつ指さしながら) Red? Red? Red? ①非言語方略 (指さし) を使う。 (赤い色の形がどれなのか気付かせることができたので、次に「形」を尋ねる。) What shape? C:Circle. T:Circle. ⑥繰り返す。</p>

資料1 導入における教師と児童のやり取り

児童は教師の働き掛けによって教師が伝えたいことが分かるようになっていった(資料1)。その活動の中で、伝えるための工夫に気付くことができた。導入において教師が行った工夫の数は図3の通りである。多くの児童が気付いた工夫は、「繰り返す」「絵や本(を示しながら伝える)」「ジェスチャー」「ヒントをたくさん言う」であった。教師が多く行った伝えるための工夫ほど、多くの児童が気付いている。

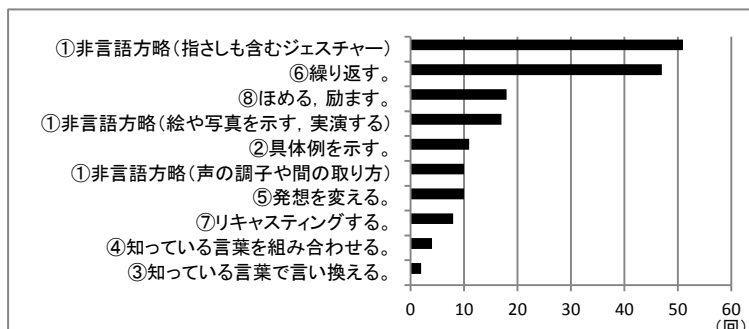


図3 導入で教師が行った伝えるための工夫

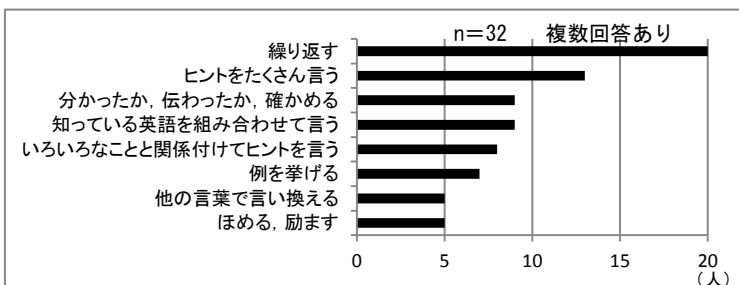


図4 導入で児童が気付いた伝えるための工夫(言語方略)

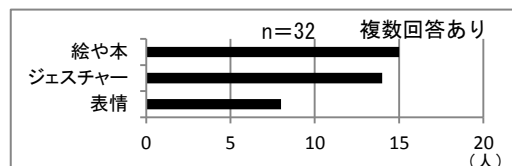


図5 導入で児童が気付いた伝えるための工夫(非言語方略)

言語的方略と非言語的方略に分けると、全体の約70%が言語的方略、約30%が非言語的方略であり、児童は予想以上に言語に注目して聞いていたことが分かった(図4, 5)。

また、全体の78%の児童が教師の問い掛けに反応することができたと答えており、教師の働き掛けによって、児童の理解を助け、思考を促すことができたと考えられる。

イ 【検証の視点Ⅱ】 「児童同士のコミュニケーションにおいて、児童は伝えるための工夫をしながらコミュニケーションを図ることができたか」について


終末で行った児童同士がコミュニケーションを図る活動における児童のやり取りを資料2に示す。

() は、内容や動きの補足 [] は、伝えるための工夫 吹き出しは、教師の見取りによる児童の思考の流れ

○ 絵カード1, 2の違いを伝え合う。

形と数

C1: (長方形の英語表現を友達に確認している。) 長方形の数を聞きたいけど、何て言うのだったかな。
 C1: Rectangle three? ④知っている言葉を組み合わせる。
 C2: Three? C1さんの言ったことを繰り返して確かめよう。 ⑥繰り返す。
 No.(首を振る) ①非言語方略(ジェスチャー)を使う。
 C1: Four? ②具体例を示す。
 C2: (数えている) No.
 C1: 長方形だよ? Rectangleの意味, ちゃんと伝わっているのかな?
 C2: うん。(頷いている。)(数えて確かめている。)(長方形の数は違うということね。)




絵カード1

数

C2: Flower three? (身を乗り出して、花を表すようなジェスチャーをしながら)
 C1: (元気よく、頷きながら) Yes!! ①非言語方略(視線, 表情, ジェスチャー)を使う。
 C2さん, ジェスチャーしながら言ってくれたから分かりやすかったよ。

形

C1: Moon one? ④知っている言葉を組み合わせる。
 C2: (C1を見ている。) 何のことを言っているのかな。
 C1: Moon. 伝わっていないみたいだなあ。もう一回言ってみよう。 ⑥繰り返す。
 C2: (頷いている。) じゃあ, circleでいいね。 circleのことをmoonって言っていたんだ。
 C2: (相手の注意を向けるようなジェスチャー) Triangle one? (指で形を描くジェスチャー)
 C1: (首を振りながら) No. ①非言語方略(ジェスチャー)を使う。
 C2: Circle? ②具体例を示す。
 C1: No. ②具体例を示す。



絵カード2

動物と数

C1: Rabbit one? ④知っている言葉を組み合わせる。
 C2: Rabbit? C1さんの言ったことを繰り返して確かめよう。 ⑥繰り返す。
 No.
 C1: うさぎ, えーっ! 一匹じゃないの?
 C2: No.No. Zero.Zero. C1さんの絵とは違うんだ。はっきり伝えておこう。 ⑥繰り返す。
 C1: (びっくりしている。) ④知っている言葉を組み合わせる。

○ 絵カード3, 4の違いを伝え合う。

形

C3: (茶色の机を指さしながら) Brown?
 C4: Brown!
 C3& C4: おー。(お互いに笑顔) 伝わった。やった。
 C3: イカの... (顔の周りを囲うようなジェスチャーをしながら) イカの頭は三角形かどうか聞きたいのだけど...
 C4: (相手と同じようなジェスチャーをしている。) ①非言語方略(ジェスチャー)を使う。
 C3: あっ! Head. (頭のあたりで三角形を作りながら) Head triangle?
 C4: (頷く。) ①非言語方略(ジェスチャー)を使う。 ④知っている言葉を組み合わせる。
 C3さんの質問したかったことが分かった。ジェスチャーが分かりやすかったな。
 C3: (顔の周りを囲うようなジェスチャーをしている。) 今度は, イカの顔の部分の形を聞きたいのだけど...
 C4: 顔? あー...。(自分の絵を指さして形を確認している。)
 C3: Circle? Square? ②具体例を示す。 イカの顔のことかな。確かめてみるね。

形

C4: (黒板の絵を見て、考えている。) <英語で何て言うのかな。>

C3: White square? ④知っている言葉を組み合わせる。

C4: (笑顔で頷きながら) Yes. ①非言語方略 (ジェスチャー) を使う。


C3: (頷いている。) (ジェスチャーをしながら) この辺の…

C4: あの一、何だっけ? (“fish” と言いたいが、言葉が出てこない様子)


C3: Fish. C3さんは、魚のことを言おうとしているみたいだ。英語で何と言うんだっただかな。

上が (手で形を作りながら) heart? 下が, triangle?

C3: Yes. ①非言語方略 (ジェスチャー) を使う。



絵カード3



絵カード4

資料2 児童同士のやり取り

児童のワークシートを分析し、導入で気付いた伝えるための工夫と終末の活動で行っていた伝えるための工夫を比較した結果、75%の児童が実際に導入で気付いた工夫を終末の活動で実践していた。このことから、伝えるための工夫に気付かせることが積極的にコミュニケーションを図る児童の育成につながったと考える。

児童がもっている外国語の語彙は少ないため、日本語を交えてのやり取りも見られたものの、児童は様々な伝えるための工夫をしながら、自分が言いたいことを伝えていた。内容としては「相手の方を見て伝えた」「繰り返して言った」「分かったか、伝わったか、確かめた」「知っている英語を組み合わせで言った」「ピンをたくさん言った」「英語で伝えられた」「いろいろなことと関係付けてピンを言った」「例を挙げた」「他の言葉で言い換えた」「ほめたり、励ましたりした」等の工夫を多く使っていた(図6, 7)。資料2に表れているが、分かったか、伝わったかを確かめるということは、そこに1往復半のやり取りが生まれている。確かめるという行為には、相手意識と伝えたいという積極的な思いがある。そして、確かめた後、相手に伝わっていないければ、さらに工夫をして伝えることになる。そのとき、どうすれば相手に自分の思いがより伝わるか、相手に配慮しながら思考力を働かせていたと考える。児童がしていた伝えるための工夫を言語と非言語に分けてみると、言語方略は約68%、非言語方略は約32%であり、児童は言語を通じたコミュニケーションを意識していたと言える。児童は、伝えるための工夫をしながら自分の言いたいことを伝えることができていた。

一方、聞き手になったときは、振返りカードによると、言語方略は約60%、非言語方略は約40%であった。多くの児童が意識して工夫していたことは、「相手の方を見て聞いた」「うなずきながら聞いた」「分からないときは聞き返した」「分かったときは『オッケー』などと言った」「相手が言ったことを繰り返して確かめた」「くり返した」「困っているとき、教えてあげた」「分かったか、伝わったか、確かめた」「ほめる、ほげます」

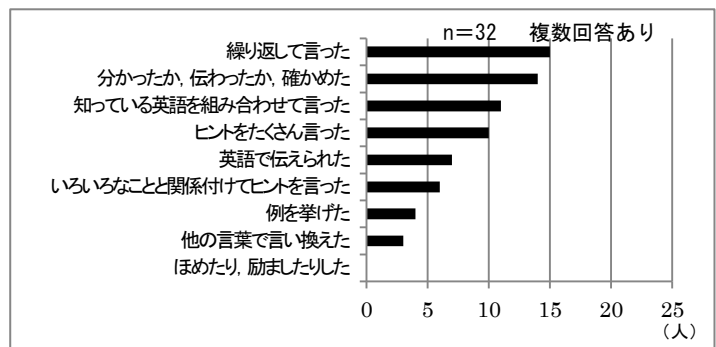


図6 どのような工夫をして伝えたか (言語方略)

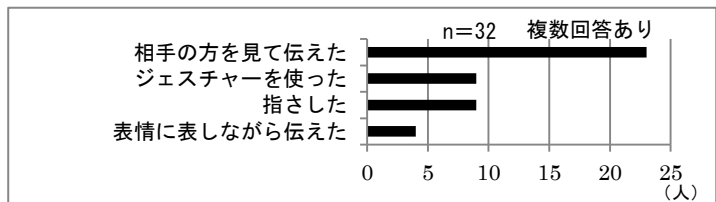


図7 どのような工夫をして伝えたか (非言語方略)

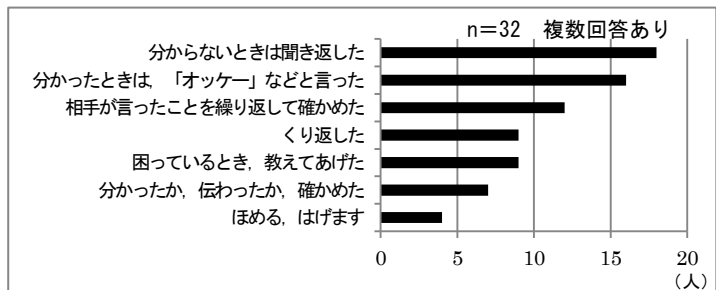


図8 どのような工夫をして聞いたか (言語方略)

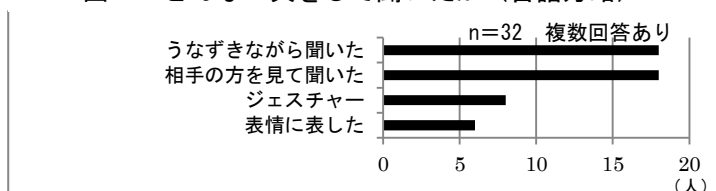


図9 どのような工夫をして聞いたか (非言語方略)

聞き手になったとき、どうすれば相手の思いをより理解できるかを思考し、言語・非言語方略を使って自分の受信や理解の度合いを伝えながら、相手の思いや考えを何とか理解しようとする事ができていた。

事前及び事後調査における質問項目「あなたは、外国の人と英語で話をしなければならないとします。英語で何というかわからない言葉などを、相手に何とかして伝えようと思いませんか」に対する児童の回答結果を図10

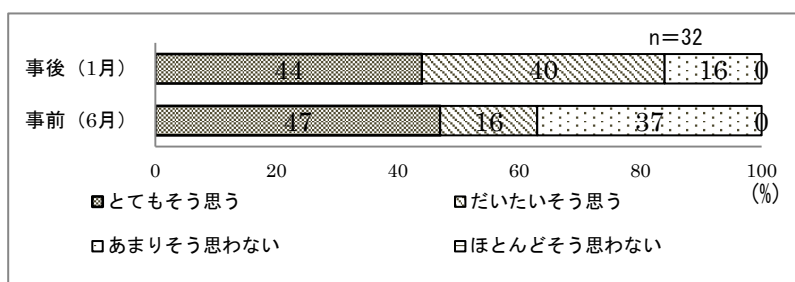


図10 何とかして伝えようと思うか

に示す。何とかして伝えようと思う児童が約20ポイント増えた。児童は導入で教師とやり取りをする中で、英語は完璧に分からなくても、非言語を使うと分かりやすいことや相手に配慮しながら内容や表現の仕方を変えていくことの有効性、つまり伝えるための工夫を体験を通じて学んでいく。そして、終末の活動でそれらを活用し、伝え合う中で伝え合うことの楽しさを感じ、積極的にコミュニケーションを図るようになっていったと考える。

8 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究を通して、単元の導入段階で教師と児童が相互作用する活動における教師の働き掛けを整理し、児童とのやり取りを行った。このことにより、次のようなことが明らかになった。

- ・教師の働き掛けによって、児童に伝えるための工夫について気付かせることができた。教師の働き掛けがモデルとなり、児童同士のコミュニケーション活動の中で工夫しながらやり取りをすることができていた。
- ・伝えるための工夫をすることで、自分が言いたいことを相手に伝えたり、相手の思いや考えを何とか理解したりすることができ、その結果、積極的にコミュニケーションを図る児童の育成につながった。

(2) 今後の課題

- ・伝えるための工夫に気付かせるための体験を積み重ねることができる場面設定
- ・児童同士での豊富なやり取りの設定

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説外国語活動編』 平成20年 東洋館出版社 p. 7, p. 24
- (2) 直山 木綿子 「外国語活動における思考力・判断力・表現力等を身に付けた具体の姿」 『初等教育資料』 2014年6月号 文部科学省
- (3) 佐賀県教育センター 『国際コミュニケーションの素地をつくる英語活動』 平成20年3月

《参考文献》

- ・田島 信元・南 徹弘 『発達心理学と隣接領域の理論・方法論』 2013年 新曜社
- ・Wood, D, Bruner, J, and Ross, G 「THE ROLE OF TUTORING IN PROBLEM SOLVING」 1979年
- ・文部科学省 『小学校外国語活動研修ガイドブック』 平成21年